

## RMAN バックアップによる制御ファイルのリストア手順

制御ファイルの**自動バックアップ**の出力先を、**'/backup/%F'**に変更しているとき、制御ファイルのリストア手順は、以下の通りです

- 1) 制御ファイルが破損したデータベースの DBID をセットする

```
rman> SET DBID xxxxxxxx
```

- 2) 自動バックアップの出力先を Oracle に知らせる

コントロール・ファイルがバックアップされているフォルダの位置情報

```
rman> CONFIGURE CONTROLFILE AUTOBACKUP FORMAT  
FOR DEVICE TYPE DISK TO '/backup/%F' ;
```

- 3) 自動バックアップの出力先から制御ファイルをリストアする

```
rman> RESTORE CONTROLFILE FROM AUTOBACKUP ;
```

### DBID の調べ方

DBID とは、データベースの一意の識別子です

Statspack レポートに表示されている

STATSPACK report for

Database

~~~~~

| DB Id      | Instance | Inst Num | Startup Time    | Release    | RAC |
|------------|----------|----------|-----------------|------------|-----|
| 1110385105 | orcl     | 1        | 24-Feb-06 02:07 | 10.2.0.1.0 | NO  |

もしくは、

```
SQL> SELECT distinct seg.DBID FROM DBA_HIST_SEG_STAT seg ;
```

もしくは、

以前の RMAN の接続ログ（および、バックアップ採取ログ）に表示されている

```
rman target ユーザー名/パスワード@接続識別 /nocatalog
```

ターゲットデータベース : ORA10G (データベース ID = 3929510386)

これが DBID